

経営比較分析表

佐賀県 太良町

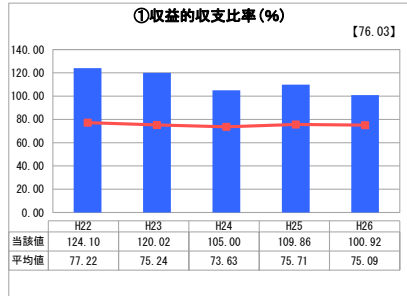
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	53.01	3,010

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,550	74.30	128.53
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,017	16.76	299.34

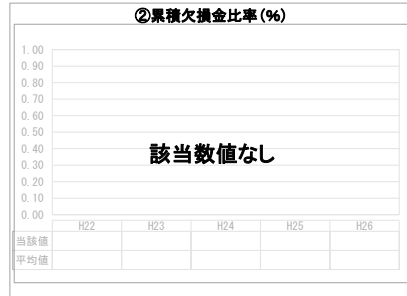
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



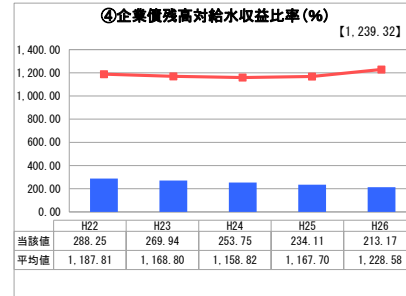
「単年度の収支」



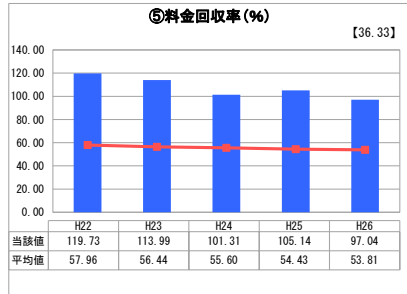
「累積欠損」



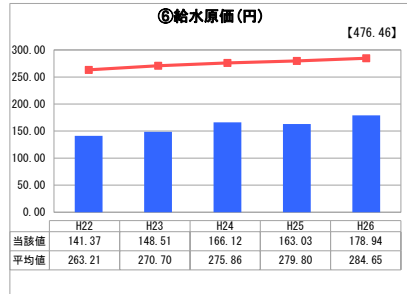
「支払能力」



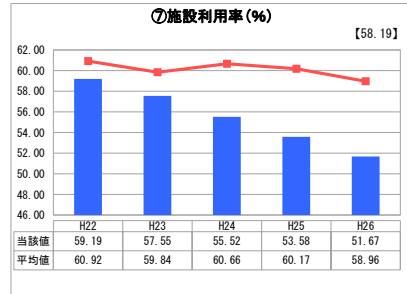
「債務残高」



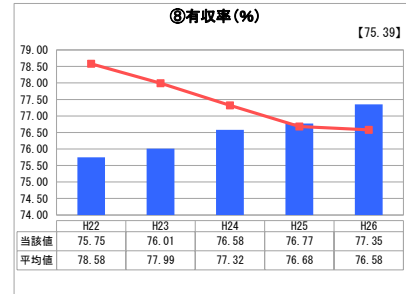
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

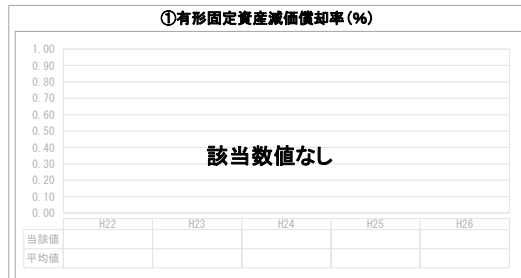


「施設の効率性」

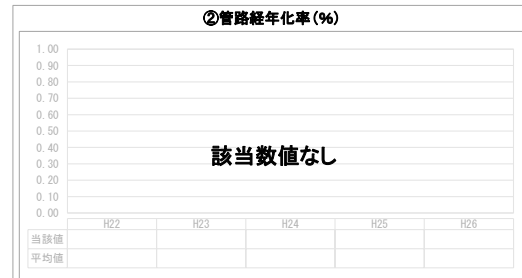


「供給した配水量の効率性」

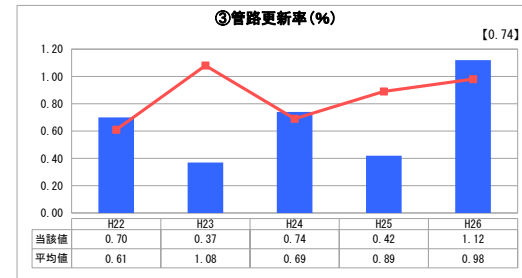
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

○収益的収支比率については、一般会計からの繰入金により健全経営が図られている状況ではあるが、さらに経費削減等を強化し、より安定的な健全経営に努める必要がある。

○企業債残高対給水収益比率については、類似団体と比較しても良好な値ではあるが、今後、老朽管の更新を迎えるに当たり、建設事業の規模について更なる検討が必要と考える。

○料金回収率については、年々低下傾向にある。その要因としては、給水人口の減少に伴う収益の減少が考えられ、今後、水道料金等についての検討が必要と考える。

○給水原価については、年々増加しており、施設利用率については、年々減少している。これは、給水人口の減少が要因の一つと考える。今後、早期収益の回復は見込めないため、更なる維持管理費の削減等が必要である。

○有収率については、日々の維持管理・漏水調査業務委託等を行い、有収率の向上に努めており、少しずつではあるが増加している。

2. 老朽化の状況について

水道施設については、これから多くの施設が更新時期を迎える。今後、施設の更新計画を整備し、計画的に更新を進めていく必要があると考える。

全体総括

現状では、一般会計からの繰入金により経営の健全化が図られているが、今後さらに給水人口の減少が進む中、更新時期を迎える施設の更新が必要となるため、更なる経営の健全性・効率性が重視されると考える。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。